

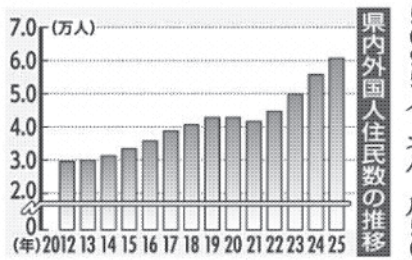


主に特定技能 就労者増

県内で暮らす外国人の数は、2025年12月末時点で6万645人となり、過去最多を更新したことが9日までに、県のまとめで分かった。24年比で4883人増えた。人手不足の業界で労働力確保のために受け入れる特定技能の在留資格者が1.4倍に増えるなど就労者の増加などが要因とみられる。県人口に占める割合も過去最高の3.21%に上った。

(三谷千春)

8市町 10年で2倍以上



県民協働推進課などによると外国人住民数はコロナ禍で増加の流れが停滞したが、水際対策の緩和に伴い上昇が顕著となった。製造業や宿泊業・飲食サービス業、卸売業・小売業などの受け入れがけん引したとみられる。

国籍別では、ベトナムが1万1922人で最多。中国6436人、フィリピン5635人、インドネシア5095人、ネパール5055人と続く。

県内25年末 県人口の3%超

在住外国人最多6万人

設問

【1】記事に照らして、栃木県の人口はおよそ何人と推測できますか。正しいものを選んでください。

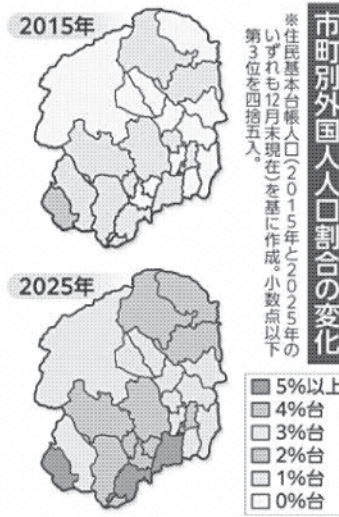
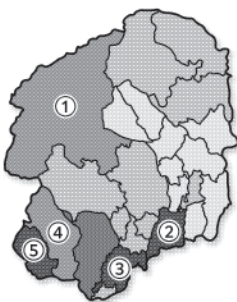
- ① 約89万人
- ② 約139万人
- ③ 約189万人
- ④ 約239万人

【2】記事に照らして、県内の外国人住民で最も多い国はどこですか。

【3】記事に照らして、2024年に比べてネパールは増加率が30%を超えています。その理由はどのような背景ですか。

【4】記事中の2025年の栃木県地図を拡大した次の地図の①～⑤に該当する市町村名を答えてください。

【5】在住外国人が2015年から2025年にかけて大幅に増加しています。このことについて、「就労人口」「文化や宗教」の語句を用いて、今後期待できることと課題をそれぞれ挙げてください。



戦力としてのニーズが高い傾向がある。在留資格別では、永住者が約23%に当たる1万4159人で、技能実習が8966人、通訳などの技術・人文知識・国際業務が7166人と続く。介護や建設、宿泊、農業など16分野で受け入れる特定技能は4番目に増えた。

日光温泉旅館協同組合によると、インバウンド(訪日客)の増加に伴い、宿泊施設の接客業務など、多言語に対応できる人材のニーズが高まっているという。さくら市は介護人材を育成する専門学校や工業団地の影響、上三川町では農業の技能実習生に加え、宇都宮市への通勤圏としての居住が理由とみられる。

外国人住民が占める割合では、15年に2%以上だったのは小山、足利、真岡市だけだったが、25年は16市町に増えた。真岡市は県内最高の5.91%で、小山、足利市も5%を超えた。